

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500390		
法人名	株式会社大五社		
事業所名	グループホームひまわり2		
所在地	〒037-0016		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成26年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気を大切に、ゆったりと生活できるよう心掛けている。日頃から、入居者との係わりを最優先にし一人一人の願いやこだわりを知り、それが出来る限り実現出来るように職員間で話し合い協力して一つでも多く叶えられるように頑張っています。母体が病院なので、医療面でも安心して利用できる事業所です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街に位置し、近場に商店街もあり買い物等のアクセスの利便性も高く、暮らしやすい環境にある。明るく家庭的な生活を理念に掲げ、個々のアセスメントも細かく行われ、残存する機能、或いは引き出しが可能な機能を見極め、家族の一員としての役割を担っていただき、生き甲斐へと繋げている。関連する医療法人のバックアップで、グループホームで生を全うしたいと希望された場合の対応も万全である。職員のスキルアップにも前向きに取組み、外部研修への参加も多く、内部に於いても年間計画の下、職員が講師になり研修を行い資質向上が図られ、サービスに反映されている。現住所に移ってから日が浅い事もあり、地域住民と相互交流出来る催しを検討しており、地域との連携強化に重点を置いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をタブレット端末に入力し玄関に置き、誰でも見れるようにしている。	全職員で意見を出し合い、地域の中の一軒の家として生活していただく事を目指し理念を掲げている。達成の為の具体的な支援体制も話し、職員も語っており、日々の対応で具現化し効果が得られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し地元の皆さんと交流。散歩中地域の方と挨拶や会話で交流を持っている。	町内会に加入し、夏祭りに招待され参加し、町会長の計らいでグループホーム向けの舞台を設置していただき、居ながら祭りを楽しむ事が出来る。クリスマス会に招待し、近隣住民からの野菜や果物の差し入れも頻繁で相互の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや運営推進会議で認知症の方のグループホームでの生活の様子や支援方法についてお話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。改善策を含め意見はサービスの向上につなげるように取り組んでいる。	年間計画を立て、グループホームの状況や地域への依頼事項等の報告や、参加者からも自然災害への対策を講じる事や地区のひと声運動への参加、又、行方不明者捜索のSOS運動への協力依頼等、活発に意見交換が行われ、取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者等の空き状況をFAXにて報告している。市職員が運営推進会議に参加しており、意見、アドバイス等参考にさせて頂いている。	制度改正等で書類整備が求められる時は、具体例を以て指導があり、空床が出た際も逐次相談し入居に繋げている。市役所主催の地域連携会議で、地域包括支援センターとの情報交換も密に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をしていない。勉強会を行い職員の意識を強めている。	職場研修の年間計画の中に組み入れ、職員が講師になり内部研修を行っている。転倒・転落のリスクについても細かくアセスメントを行い、安全策を講じており、声掛けも行動を制する事がないよう意識が統一されており、心身両面に於いて拘束は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待もあってはならないことを考え人権を尊重し言葉遣いにも気をつけている。内部研修を行い職員に周知し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての外部研修参加や学んだ事を他職員と共有するよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書と重要事項説明書に沿って説明を行いご家族様の方の疑問や不安な点を尋ね理解して頂けるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時に個別に話が出来る機会を設けている。また家族にはケアプラン作成時、担当者会議を行い家族の意見・要望を伺っている。	家族の都合に合わせて担当者会議を行い、意見・要望を聞き取り、ケアプランに反映させている。参加が困難な場合は、電話で確認している。又、意見の受付は市や国保連が窓口になっている事を契約時に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のケア会議に代表も出席し意見交換を行っている。半年に一度、代表との個別面談を行い職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。	管理者は、普段から職員間の和を大切にしており、意見も出し易い環境にある。代表は毎月の会議参加や年2回の個人面談で、職員の思いや意見を吸い上げ、環境整備や業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトは、職員の希望を聞き作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修を計画して実行しており、研修後は報告書を提出してもらい研修報告は、会議で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム協会を通じて同業者と交流する機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者には、一度ホームへ来て頂きホーム内の様子を見たり話を聞く機会を設けている。サービス開始前にはそれまで関わっていた居宅から情報を得た上で家庭訪問をしてゆっくりと話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談も行っている。何に困っているか家族からの要望、不安を受け止め信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人と充分話をした上で家庭訪問をしたり、以前のケアマネジャーと話すことにより見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き・調理の手伝い・日常の作業を行ってもらいお互いに支え、支えられる関係を意識しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの情報を元にケアを行う中で必要な物をご家族に持参お願いしたり相談をする等支え合う関係を意識しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や連絡手段等可能な限りサービス提供出来るよう努めています。	理美容院は、家族の協力で行きつけの店を利用する方がおり、希望に応じ入居前に利用していた商店への買い物を支援したり、友人の面会も奨励し、関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの役割を持ったり助け合えるような促しをしている。席を工夫する等、楽しく生活出来るように支援しています。トラブルが生じたら、スタッフが間に入り影響が残らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談出来る旨をご本人や家族に伝えてあります。退去先に対しケアの情報を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から本人の意向を聞き取り利用者の思い希望を把握するよう努めている。	生活を共にし同じ時間を共有する事で、個々の動きや表情から何を希望しているのか把握出来ている。入居後日の浅い場合は、職員間でも意識して関わりを多く持ち、情報を共有し思いをくみ取るよう連携している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ情報収集に努めている。前機関等の担当ケアマネや医療機関等から情報収集行い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来る事と出来ない事、苦手な事を把握しています。生活パターン・リズムを把握する為センター方式等を活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング実施。ケアプランは月1回の介護会議でご本人・ご家族スタッフが参加し作成されている。	センター方式から抜粋しアセスメントを行い、家族の会議参加を得て、意見を取り入れた介護計画を作成している。独自の課題検討用紙を作成し、健康面から社会性まで細部に渡り現状をチェックし望む生活に向けたプランを立案、実践され、毎月モニタリングも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の記録を書くのはスタッフ一人だけでなくいろいろ職員により記録されている。共有は必要な事柄に関し送りノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ人員配置を多くする事や遠出の支援もされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じてご家族・民生委員や行政相談員等の周辺地域の方々と意見交換をする機会を設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人及び家族との希望や要請を受け相談に応じており、掛かりつけ医への対応を図り支援を行っている。受診結果は、その都度家族へ連絡しています。	かかりつけ医は継続しており、定期受診はグループホームの車輛を使用し職員が付添っており、結果はその都度家族に報告している。専門医の受診が必要になった場合は、家族も同行していただき、医師から直接説明を受け関係性を持つよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理・医療面での相談・助言、対応。連携を図り受けています。週2回、中村整形外科より看護師来所して健康管理しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人はもとより家族や医療連携へその主旨を報告しその機関連携の担い手として努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いや相談に応じており医療連携を図りながら行っている。終末期にはご家族と過ごせる看取り部屋を提供。ゆったりと過ごせるように配慮している	看取り指針が作成され、入居契約時に説明し、本人・家族の希望に応じ看取りを実施している。隣接の拠点事業所が医療法人であり、24時間の医療の協力体制が確保出来ており、職員の不安も軽減されている。家族が見守りながら終末を迎えられるよう専用の和室も準備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに応じて対応している。急変・事故発生した場合は直ちに対応してもらえるように医療機関等と連絡し指示対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	二ヶ月に一回、避難訓練実施。年に一回は、夜間想定訓練をひまわりと合同で行っております。	独自で隔月に火災・地震を想定し、訓練を実施しており、年に1回は、消防署立会いの下、夜間を想定した訓練を行っている。町会長の呼びかけで近隣住民の協力もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意向やプライバシーを配慮した上で呼びかけや声掛けを行っている。スタッフには守秘義務を徹底している。	明るく思いやりが伝わるような言葉と声掛けを行い、利用者の穏やかな表情にも効果がかがえる。不適切な対応があった場合は、職員同士で気付きを促すよう助言し、当日のミーティングで振り返り、再発を防いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	力量に応じて自己決定を促す場면을積極的に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースやその日の希望・身体・精神状況に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで衣服を選んだり希望により他の美容室に行ったりお洒落が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・後片付け等を一緒にやっている。スタッフも利用者と一緒に席に着き食事を摂っている。	近隣住氏から野菜や果物の差し入れが多く、皮剥きやカット等率先して行っている。個々の機能や意欲に応じ、食器やテーブル拭き等担当してもらい、生活者のひとりとして役割を持つ事で主体性も培われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況を把握し、毎日、個人のケース記録簿に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの習慣のない方には毎回声掛けする。ケアの不十分な方には手を貸すなどその方に応じて支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握している。時間を見て声掛けし誘導している。	個々の排泄パターンの把握と、行動を細かく観察し、排泄のサインを察知して、さりげなく誘導しトイレでの排泄を支援している。夜間は、自室でポータブルトイレの利用が多く、コールマットの作動で介助を行い、オムツへの排泄を減じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩等で体を動かし食事や排泄のチェックを行っている。毎日、ヨーグルトを食べている方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前にバイタルチェック。個々にあった温度調整。状態に合わせてゆっくりと入浴出来るよう支援している。	週3回の入浴を設定しており、利用者、職員ともに全て女性で同性介護が行われており、拒否された場合は全員で対応を考え、段階を踏んで入浴に繋げた事例がある。入浴の無い日は足浴を行い保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間を把握している。眠剤の服用では医師や家族と相談しながら行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは全入居者の服薬の内容を理解している。変更があった場合、その都度、連絡ノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの役割があり自身につながるよう支援している。(台所仕事・料理・買い物・裁縫)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分転換につながるよう買い物やドライブ、外に出る機会を作り外部の方々と関わりを持っている。	天候に合わせ、隣接の公園に散歩に出掛けたり、食材の購入で買い物に出たり等、外出の場面は多くある。遠出の行事も四季折々に計画・実践されており、笑顔満面のスナックを、居間に沢山飾り、来年も行きたいという意欲の引き出しに効果を上げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力を把握し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用はいつでも自由に出来る事を伝えかける時は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には毎月の行事の写真を飾り、ホールから外の様子を見ては季節感を感じられるようになっていきます。また、玄関には季節の花を飾っています。	共有スペースは木の温もりが心地良い大型のテーブルが置かれ、利用者と職員と一緒に食事が出来るゆったりとした空間である。両サイドが全面ガラス張りです採光も眺望も良く、居住スペースに加え、隣接する公園に面してサンルームが設けられ、自由に往来出来ており、寛ぎの空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人が隣になるように座る位置を決めています。ソファでは、横になったり自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく風通しが良くタンス・仏壇など自由に持ち込みが出来る。必要な物の要望があったら家族への相談・働きかけを行っている。	在宅で使用していた、愛着のある家具や私物が持ち込まれ、家族の写真が飾られたり、個々の思いが感じられる居室となっている。各居室に通気口が設けられ、快適な空間になるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方が移動しやすい様子すりや空間に配慮している。また必要ならば居室に名札をつける等の工夫をしている。		